

競技・審判上の注意

1. 本大会は、令和5年度(公財)日本バドミントン協会 競技規則、同大会運営規程並びに同 公認審判員規程により行います。会場ルールを設ける場合、代表者会議、大会公式サイト等にてご案内します。
2. 棄権をする場合、各都道府県代表者が、大会本部及びレフェリーへその旨を申し出てください。いずれの場合も、棄権届用紙に必要事項を記載し、提出してください。
3. 大会運営規程第19条により棄権したプレーヤーは、それより後の同一種目及び今大会にエントリーしている他の種目全てにおいて出場できません。ただし、ダブルスの場合、棄権したプレーヤーのパートナーは除くものとします。
4. 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は(公財)日本バドミントン協会の審査合格品とします。着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示については大会運営規程第24条を遵守してください。また、ゼッケンを使用する場合には、必ず四隅を固定してください。
5. アリーナへの入・退場時には、IDカードを首から下げてください。
6. マッチ(試合)の進行は、試合番号順に空いたコートから入れていきます(流込み方式)。本部より試合のコール後、10分経過しても当該選手がコートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなします。コールされたコートへ直接、集合してください。
7. マッチの進行状況により、試合順序やコートを変更してマッチを行うことがあります。コールにご注意ください。
8. 同一選手のマッチが連続することになった場合は、原則としてマッチ終了後、15分の間隔を置き、次のマッチを始めます。
9. 審判構成は、主審、線審2名、得点表示係1名でサービスジャッジは原則として配置しません。但し、準決勝及び決勝は主審、サービスジャッジ、線審4名、得点表示係1名で行います。
10. マッチ開始前に3分間の練習を行います。各コートの主審による時間計測の指示に従ってください。練習は、ダブルスの場合は、パートナーと、シングルスの場合は対戦相手選手と行ってください。コーチ等のヒッティングパートナーとは認めません。
11. シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。また、シャトル交換については、主審が必要かどうかを決定します。
12. 給水やタオルの使用は、必ず主審の許可を得てください。容器は、スクイズボトル等のフタ付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。飲み物用のトレイは用意しませんので、コートサイドに各自のバッグを持ち込み、バッグ等の中に置くようにしてください。また、クーラーボックスのコートサイドへの持ち込み及びコーチ席への持ち込みは認めません。なお、試合中の氷嚢の使用は、インターバルのときのみとします。氷嚢は、コーチ席で保冷バッグなどに入れて保管してください。
13. スピンサービスについては、競技規則第9条第1項(5)の違反とみなします。
14. マッチ中のコート又はコート周辺でプレーヤーの携帯電話が鳴った時は、競技規則第16条第6項(4)の違反とみなします。
15. プレーヤーが汗をかき、その汗を手で拭い、コート内外(競技区域)投げ落とす行為については、不品行な振舞いに相当するものとみなします。
16. マッチ中のけがや病気については、主審の判断によりレフェリー(競技役員長)が呼ばれ、レフェリーがその後の判断をします。なお、試合中のけがや病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
17. 各コートにコーチ席を2席置きます。コーチはマッチにふさわしい服装で臨んでください。特に、本大会は個人戦のため、チームで揃えたTシャツ(ロングTシャツ含む)着用は不可とします。七分丈パンツは不可とします。アリーナ内では常にIDカードを首から下げ、体育館シューズを着用してください。また、モバイル機器(タブレット・携帯電話等)を使用してのコーチングを禁止します。
18. 競技規則で認めるインターバル時に、競技区域に入れるのは同時に2人までとします。
19. レフェリーにより失格を宣告されたプレーヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
20. 空気調節装置の使用に関しては、大会運営規程第16条によりレフェリーが判断します。